

## あいまい環境下のモデリングと意志決定

京都大学出版会 (386 頁)

いま、この“不確実性の時代”において、将来を確実に予測できることは何一つない。このような“あいまいな環境”のもとで、人々はあふれる情報を取捨選択し、分析を加え、可能な選択肢を比較評価して行動を決定していかなければならない。本書では、国際経済における不確実性の計量経済的取り扱いや市場競争下における小売価格の決定問題、コンピュータ・シミュレーションの有効性などを具体的に紹介しながら、意志決定における解析的局面と判断的局面を取り扱う諸方法が、それぞれの特性に応じてどのように決定問題の分析に有効で、また拡張され得るかについて、その道の第一線の研究達が熱く議論している。

本書は序章を含めて全体で10章で構成されている。

序章は、「あいまい環境下における経営意志決定と政策的支援システム」(瀬尾美巳子担当)と題し、本書の主題として“意志決定”を取り扱う視座が“知恵の統合”にあることを明示し、本書の関連領域においてこの問題がどのような変遷をたどってきたかを概観して本書の志向するスタンスを明らかにしようとしている。

第1部「国際環境における計量分析とシミュレーション」は、第1章「計量経済モデルによる不確実性の短期的分析」(福地崇生担当)と第2章「地域計量経済モデルによる長期的分析」(山根敬三担当)から成り、経済データの代表的計量分析手法である計量経済モデルに基づく構造分析とシミュレーション予測について論じている。

第2部「競争と協調下の市場戦略」は、第3章「市場競争下の価格差別と価格調整」(有賀健, 松井建二, 渡辺誠担当)と第4章「国際市場競争へのゲーム論的

接近」(黒田達朗担当)から成り、競争市場におけるミクロ的およびマクロ的な市場分析の視点から、市場価格メカニズムの作用についての分析と市場戦略のあり方について議論している。

第3部「多目的環境における最適化と意志決定」は、第5章「大規模な多目的計画問題のファジィ意志決定」(矢野均担当)と第6章「非協力ゲームによる多目的計画問題の意志決定」(西崎一郎, 坂和正敏担当)から成り、互いにコンフリクトする多数の目的が存在する決定環境における、意志決定問題に対する最適化手法の利用とその拡張について議論している。

第4部「不確実性下の意志決定分析と知的意志決定支援システム」は、第7章「効率的なリスク配分—最後のフロンティア」(J. W. Pratt 担当, 瀬尾美巳子訳)、第8章「あいまい環境下の意志決定分析」(瀬尾美巳子担当)、第9章「意志決定分析のための対話型コンピュータ支援プログラム」(瀬尾美巳子, 西崎一郎担当)から成り、意志決定の二つの局面(解析的ならびに判断的局面)の中でも、特に非定型的な決定問題の解決において本質的な要素を構成する判断的局面の合理的な処理のための方法について論じている。

意志決定のための従来の数量的分析においては、解析的局面のみを重視し、特に観察される事実に基づいた客観的な分析を行うことに主眼がおかれてきた。それに対して、本書は、客観的な事実の数量的・解析的な局面を分析するだけでなく、意志決定の人間的・判断的局面を真っ正面から取り上げて、その合理的な分析を試みている点がユニークである。編著者ならびに執筆者の方々の並々ならぬご努力に敬意を表したい。(田村坦之)